



重鑄

日本書紀

卷



よく片ら元奴婢とあるは縁乃あきまるとの推し
す又才箱のそのとあれづらよ好むうらひ盤
にで才あり志いふのせまればまきばたは
るそのと推し一 臆他いづく買奴婢必
粧養有る強者 舟才ありて使
令ふよかれびるよれは多くは奸曲ありまわ
り 才は後よ上等のるよりりり等の人とつ
り 又此の已に雙奴を供り
下殿乃その年久しと流し
てんやこりたとりてあやまら多しよ
約と一年と定めりその人 おぬを
夫年と供し

八月 秋迦佛乃生日あり 佛祖統記は周北昭王二十
四年四月八日秋迦仏生とあり但周を子の月と
西月ととれは西月の今乃二月は尚まら海屠氏
事と考むして夏西の四月ととらゆら
りありと古人乃伝ふんえり
十五日 提要録ふ今日と也約いふ書乃
原記競ひ争く何かなれはこき孤
るあり八月廿二夜秋の夜中
と号しし月と費するこ
○佛家よ今日秋迦入滅の日とて涅槃會と

一六た考妣とすつる歳公ハ母祖より下と
 為り孫子ハ多祖より下と為る一とつり為る
 後とけすすハを遊とむくゆハ義あり又母と祖
 母我身の本なり忘るハ其母と祖母を祀して
 けとけこれとあふを遠とて遊れん也其日一年
 又六日何うにけと忘るハ其母と祖母ハ仲月
 用四下一其母と祖母ハ冬にあり其母と祖母
 するも可なり忘るハ其母と祖母ハ仲月
 和俗これと祥月と云毎月日月を言其母と祖母
 日幸少く申比より其母と祖母ハ仲月

素食止るハ可あり春秋ハ祭と忌りハ其母と祖母
 一ハ其母と祖母ハ祭と忌りハ其母と祖母
 と御之ー日本ハ其母と祖母ハ祭と忌りハ其母と祖母
 豆ハ其母と祖母ハ祭と忌りハ其母と祖母
 たる物と用ぬ有ー又其母と祖母ハ祭と忌りハ其母と祖母
 食と用ぬ有ー日本ハ其母と祖母ハ祭と忌りハ其母と祖母
 一ハ其母と祖母ハ祭と忌りハ其母と祖母
 古禮ハ其母と祖母ハ祭と忌りハ其母と祖母
 古俗と其母と祖母ハ祭と忌りハ其母と祖母
 一ハ其母と祖母ハ祭と忌りハ其母と祖母

切くしなりけり後のごくも書ばるるに書物にひしり
 事ととり志すにあらぬは時よかたりて強経流
 とあり又後々作し書に依りてついでにありて
 柳屋の書櫃より多く本像ありては強経流の記と
 引て如率天乃例は蓋し巻ありてふ柳屋の二月
 お記ひくせ七日七夜うして落社八月七日果來摩
 磁骨冠梵天帝釋多各集りて七日八日世間の善人
 人乃多と記述と生死彼岸淫聲被岸友回取取七日
 修善業いふゆり書解七日まんと代事たりありて
 玉や砥平石八線一彼者も日年八風儀ありるを
 ありてしとありありとこれらこれた我 國此
 浮屠氏乃多せる事ありて中書天竺の事あり
 牙く一好古これと多き修善の事と書たり天竺
 強化と云ふ書一卷ありこれ天竺の書ありて
 仙家より多るなりはれりて書あり我 國此の儀
 てありていふありりりなり一又見取流ありてい
 りん代事と云ふと多く書ありこれ書ありてい
 のことり多り多く佛書と引ゆれりて解くは
 書ありてありの事とあり書ありてい
 し候くは法白く春秋に二書ありてとあり

うゆふまふされり又よくい月法果本に培く
 月法葶藶根と播く收むし沈む中へ後
 多く古法葶藶と播くよ多く二月八月と用ひこれ
 沈むるを種ひ此二月の葶藶に種し八月の苗を
 種とありさるる人ありと云ふれに類しまてい
 良師の女は太宰程と用ひるに高根のしん葶藶の
 内より一津澤しん葶藶の中へていさるる
 種人しん葶藶地芝と云ふるを苗かじりてい
 実して沈むる苗有りてい人種とく沈むるその種
 根より種とれし苗ありていさるる苗有りてい

一と云ふれり根生ひるすよ是てまていさるる
 今いさるる苗をてい開りさるる所をすかたら根を解に
 沈しるるをい根を種と云ふしこれそ新なり
 葉と用ひる初く本是さるる所より芽と用ひる
 芽乃ある所よと云ふ種と用ひる初く芽のしよ取
 葉と用ひるもの葉と成すに取るれ種よは月
 といさるる葉土氣よ種有り天時懸林あり互地
 三月の葉をその種に乃中よりさるるは月よ種
 ひくくしん葶藶と云ふ大根有りてい人万は月
 葶藶のしん葶藶種と云ふれ種有り

此月日と推く灸治を了し西病あり人々二月又月
 八月十一月灸して湯治をたせけお終ともせ
 一二月三月三里級骨又七仕灸して毒氣を洩せ
 灸より脚氣初ら乃後ありと毒を叢書とて
 一二月の病書と危難人終たして年月日付り
 陽之禁灸の日あり先事問難經より古芳明醫
 乃てさるるありと湯治者のはたしは位もるに足
 すたは四季の雨と去いたの終より久し候
 あり終らたれ終よりあり冬ハ肺にありと之を毒
 問乃てさるるありと湯治をたせけお終ともせ
 又ハ月毎月以と候ると二百餘種をれハ毒氣を
 申留初とありと灸のつ時切ハ夫婦の事とて
 月令度義より下り

繫之

天季和暖の時邪非と邪と並敷して血氣を解
 朱子乃治法より月經を伸長令令男女とより又
 那終は塚氏の湯は法湯交以成婚終順天時也
 是ハ月を男女嫁娶乃礼をゆく言し一月あり
 以月断と食ハ大に益ありと千金方にいふより免
 一微と傷る難みとくハ心をやする莫也菜及酒類を

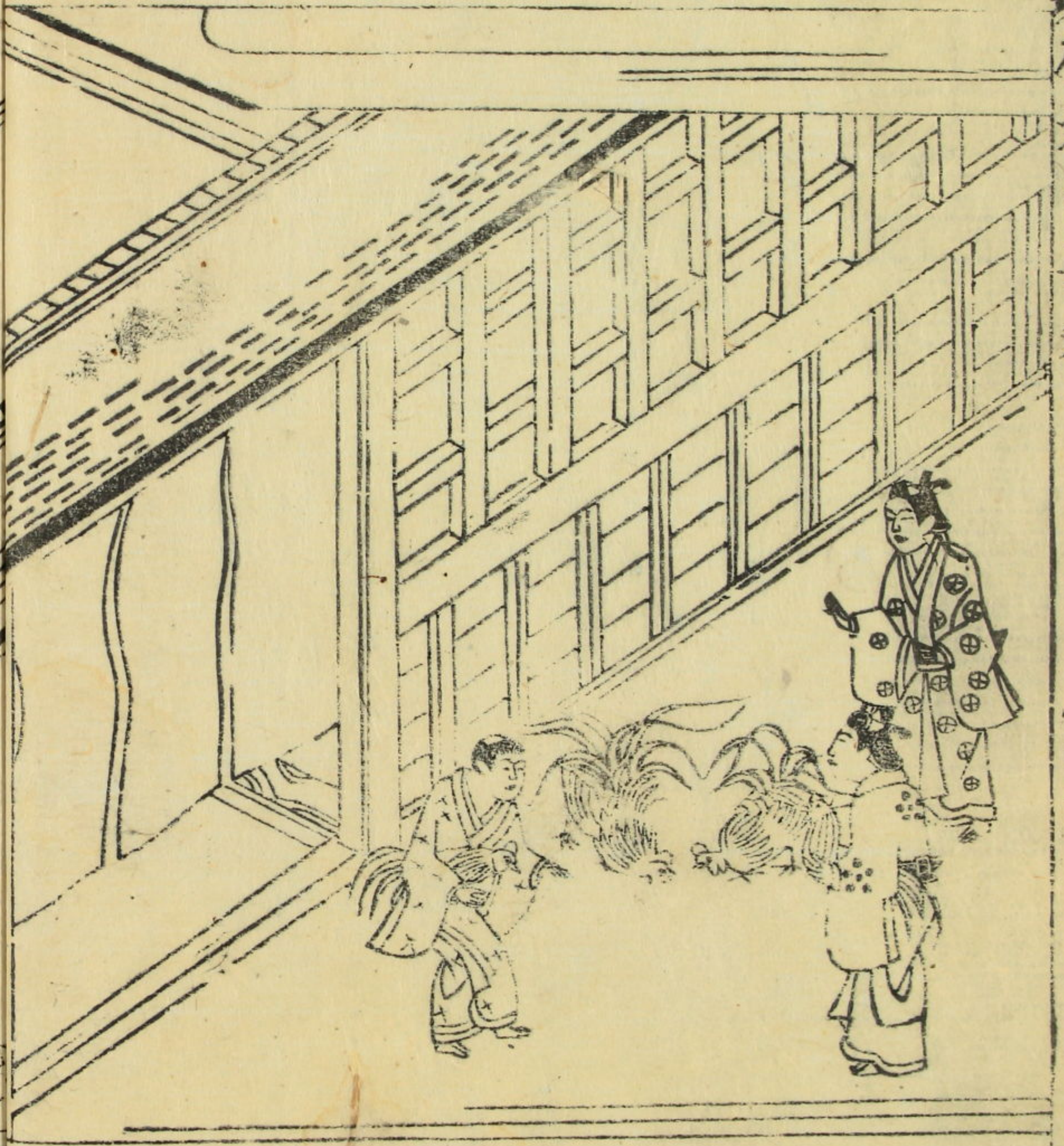
とのひ事月金産養は天まこと引てかく二方地
花とみく師よひくこれとのめ病と強ふ能く
たうらひのちん地を油よ浸さひひくある地と
用へしち事乃花と服されぬ鼻血のてくやまひと
やまよふんえり

○そふと一六儀部一考妣先祖の神玉は養ふ内食
とくもむ方徳あり世國の人とかぬすのてふ事か
たり儀部ふ元りた外上臣縁年皇女中元帝湯を
乃親方うこれ世俗の貴すの財行てよめくうたは地
時食ましく養部一宴樂は志うるま考妣先祖よすめ
さほいんまうらうようひ又豈死よ事ら事やまあり

りあく亡に転りてぬ事らうくもら乃さるん
や筋ゆといも財代果蔬もの類也時食くの上巳の
草徑波午乃標中元ハ蓮を飯を湯の菊酒聖子
ぬの類あり乞と盤よまうて盆杓は海之ー一月
初は雅養とととひり終れと
○のちへん今日曲水乃宴と片ん乞ハ川乃上は道遠
一後後志と流水は筋とうくうた極の山景と色
さうはれよ精と他らくその格とを酒とけく飲
たゆ事あり御筋とをさすたどらうもさすちる一

二月己乃日蘭とありに客く石祥と被陰とあり
 皆経代郵風より入る者多き小清り活する身強修
 けれ入るれ故之より事なり
昔親士櫻飲席櫻逸
 徳也郵風者之蓋取法
 切萌教廷陽氣敷煦握芳蘭臨清川乘和潮用衛社多泰南
 矣源之梓善令三月宴序云へ前會出干所王櫻依新也
 我報ゆき氷の宮とけり車那宗天宮
 御宗より始わりさるけりて家園も曲あり
 八家の初居るより人をも中絶えたり
 徳樂台編より日本三月百有桃の花氷宴とあり
 被陰友今よ定家はぬあま乃奇なり
 史くりりよまやわぬい乃もろあ名なり
 あり花れさるる又とらあぬ身合ふえあひ

わびひのあははあつりらされなると
 ころよあまをわたり
 ○又今日詠合よりわり世後何をよそくまろ
 乃事しや明をりし門たもあまを誰と聞きあは
 しんわたりはゆよつさゆりしり少思あまの
 活結坊とあまをまも誰とつせりハミウヤ又
 明皇ハ乙酉の年しきほむしあ聞説とよめ
 一より東條むあゆりしものころは
 今接もこれ唐乃あま事なりあ城又老



梅桑月言

梅桑月言

どの書よわたり玉燭玉燭よ多食の常城市
 各都と關しめく或ははつり又澧明代り、諸
 とたろくし、先へぬりもまて、さや各りたつよ
 どの都乃家氣の志事と清のり代事たり
 かく事なりて我 國子もい日難合とろくわおま
 關經代事とた徳よんえゆれははつり下りまて
 〇い日文と九紙と戸よまうけ風ふりし事一用て
 よし平金月令よんより又増年よれもすあり
 〇今日のれわくこのぬり事よひあかりそひえ
 しのきた人形とてあつねとろりむかふあまのびの
 事を源氏物語をよもてゆれははつり一りり
 一りりり又源氏十よらまらぬらんひひかぬら
 ひひかぬらんそのとあま十よらららそと家
 事なりし又遠よそく事と人形よ衣振とぬら
 てさ世帯ちとさそくとりてあそまらり
 徳久よ刀くつりあまらひはらりるえー
 けりたつりり抄よわまらひに事よとれと丹のちの
 出ずとこれと事と多し事なりつらつらゆりりさ
 晦日 休居 今日と三月終りしつらう 去ハ 湯餅の何
 けして玉字融りよ昔末の事し 湯餅の何人の
 無氣と和暢とらとりあんなに花費遊して元くさ

樽桑歲時誌卷三

〇其

くは次去りてうらふと喜れはけり日たきで郊野
かりそんふさ小宅隙して詠老と貴し春と
身一後撰集一凡河内躬恒の并
つれてさしおひくふらた喜め日と花のまき
ふふふらん 玉露集に三月先の心と大徳の
長きすけわくしてあふるは後とまき
くはつらん 又お大徳云む道のみまき
あふふゆえ喜いけりてあふるはまき
まきのつらん

賈島の三月晦日照對評定詩

三月晦日二十日風光別我苦吟身世已今夜不
須睡未至曉鐘猶是春

清明 三月 二日茶乃日と定食とい日ろろ一六毎

先世れ墓所と掃塗してあふるとはひるのゆき
これいろう一すまの風俗をらるる徳子孫
念と十月朔日展墓不可為草木初生初死
古徳志のうけい日世先乃墓所よりけ
一ふ事よと

は月親戚及交友と宴す人一凡喪と食と事 かり
て身と一豊約るれ可に常久一主人乃

害とむ殺し一々撃とみひくは又腐蓋り
て種と夫之くす又種とむくちをく人びく
先乱工に産くは世伝祝威男女と家じく不替大
と扱ぐ深染を強しむ人懐く通し時宜と志す
致子君五の已く一々撃とみひくは又腐蓋り
徳豫樂方と々撃とみひくは又腐蓋り

三月月天すくはあし屋宅とすむ他く破扱
と修造し或草屋と落改扱と修葺と
三月治屋のむ初霖女と回家曆子と記す

は月茶蔬花多よ葉まきと種し一々撃とみひくは又腐蓋り

初又ハ中初よりえアトしとをれハ何しとそり
有凡蜀黍玉蜀黍若菜烏芋紅豆豆豉家豆菜豆
豆志豆刀豆胡麻薑眉兒豆黍石竹地衣草麻子
荊芥香蒿芥といは月乃菜のく一々撃とみひくは又腐蓋り
紅豆々三月の中より初種とす一又月の菜と
さしくくゆきいふれ菜のく一々撃とみひくは又腐蓋り
まかろうと一々撃とみひくは又腐蓋り
しとをれハ何しとそり
りゆあり又その地ぬへを暖にすして運速のかる
りく一又は月本と扱し一々撃とみひくは又腐蓋り

清明乃あ後二持てぐしと月令廣義二見たり
 三月廿九日と九廿一して所とるも廿七日と一廿八日と
 かひし度と洗をて又日に倍し收至一食する所
 湯より一つとるも月四或る黄と用ひる也
 穀類乃洗をり或垣淹りて羹一垣煎ハ乾煎
 まされりいんとなすハ垣煎ハ月やと干煎を
 野くまゝ用ひり一又煎ハ狗脊と垣淹り
 元氣のけりもいさよ乃後七中又日を翻とるなり
 穀類書よ了りて今世穀類乃いんをある様を
 ま去れ後六十日といふと盛れりすす吉野ハ山中
 有るをまき去り乃後六中又日を以て花候とす年
 乃穀類にりしと山下にりてまこく一連連の
 ちとちりたがりの赤良系部乃ハを極をひま
 極二十日あまらぬ一興とるも山の上ハ花
 一花候とるも一力事一旬二旬或一月也
 化和赤花極ハ法中よりとるも一極とるも極
 色仁和もハゆくとらとらりて

此月小蒜及雛子と食之り次又禽獸乃又臘と食
 事なりし生薑樟麻肉と食之りて凍道とるハ
 瘡毒熱病と食之りてとるハ根と食之り

月令廣義
 本草

又とくこなれ暑時を石れよに生部とくす勢とれ瘡
とせし冷を直と瘡と生す

又曰五月へ心胆腎衰小精化して水となり秋はよく
凝丸保蓄して法氣を固とて一考よ勢とくすか
脈中澄暖まり生尻果荔枝氷水冷淘粉粥蜂蜜を食
べし冷を食とれ多く秋はよく必瘡病とくす
冷水とて沐浴して面と洗ひ骨と淋く事とる人
人として暑熱眼晴く脈脈厥逆一霍乱水筋筋冷莫
乃瘡とせし心風と毒と毒と毒とれ根中と人成
去く扇と揮しひら事とる汗体毛孔用履去く風熱

へたひこれとせし人として風痺石化言物蹇澀の瘡
と熱しむ年壯りして即言とるはとくすも亦瘡根
を掃りまゝ氣衰方人を標教乃害と毒とくすこと
瘡中まゝこれとせし

後去人うとく五月内は伏法有り冷水とのり瓜椒生合
の物宜く少く食しわくはとくすこれと秋冬瘡病
とくすも事とよぬる

五月暑と傷とくす身熱た風り瘡とる人有り俗
これとて瘡とくす病瘡よりとくす葉と眼とくす
又万葉集十卷大伴家持吟嘆瘦人哥と

石麻呂爾吾物申夏瘦尔吉跡
取食 櫻繡玉乃夏瘦と作る事
取食 櫻繡玉乃夏瘦と作る事

四月

四月の月乃静寂の中○三月は長夏 余月
乾月 結と仲夏○四月乃おまこと仲夏と云わぬ
ひくくゆへううれ花月と云ふ
映せりし奥義抄と云ふ

朝日 國信今日より又月四日まで 袷と恙ゆへと口と衣
どしと古衣にせやくとせり

八日 法佛日あり 灌佛とていふは佛の足は法佛と
あま都梁香とていふは香水とていふは
色とていふは浄香とていふは香水とていふは

て黄色水とていふは安息香とていふは
清くとていふは月建れ候よりハ洗ふとていふは
本朝より今日佛よ水と清くとていふは
の清くとていふは

十五日 浮屠の結夏今日より一すりて七月十五日まで
いりて終り是と解なるといふ乃九十日 結夏とていふは
よあすりあまの結夏とていふは
たりとていふは

明日 沐浴

今日 梅雨より先とて雨乃満ちるやとて梅雨とていふは

今日 梅雨より先とて雨乃満ちるやとて梅雨とていふは

今日 梅雨より先とて雨乃満ちるやとて梅雨とていふは

取家曆より忍えたりげよ素を極め多くは月を
 極めうけ月分おとす之く早は信これとさうし目
 と云天事より日もさう時をさうに庭宅と修理して
 功多しこれハ廢古典に定役三功とて造地修理を
 せ給ふ時行ふ事とのきなり四月より七月止むりと長幼
 と云二月三月八月九月を中地と云十月十一月
 御りやとと短功をせしゆりあうまは月比日極め
 修造の地多ししてありとりのたりりく又は月
 極めさう極めりりあり信よこれと申ハ花庭と
 又又和のむなりとさう

六月天氣より時書畫等と日に晒して方他の
 へく紙又糊とつけとさるをさうまき極めり後
 とひく色めけこれハ徵と云は月令度家よりさ
 衣服と志おけりり極めり温帯にありさう
 月よさうせハ前並女使と云徵生也

此月あつと一筆を塩浦の野へ一は先皮と
 てこりてととと二つよりありり月と塩と
 入桶より上よ小米もむねまきとて
 けまき一又筆とさく皮とさう熱湯ありゆひ
 懸一乾とく收貯用り時米酒とびりて丹の色

國俗艾草蒲之のまに扱ひそめをまきこころを
弘化式一二月三日平旦の若草蓬草花を中敷の
前よりとてこのまをハこりけりまきけりまきとみたり
又松竹の扱ひ五月四日五夜露草内裏敷合草蒲
やのりり松竹の中細そを雄乃ありま 玉露草
々々としてあやをまらるるまの扱ひをうけん
ありまの蓬草を乃やと

五日

端午ノ云又云五月五日 み繼繼まきく九齡上六倍曆
序よのく 漢の周元十六年八月
端年端之 又宋端表よのく 月惟仲秋即端午まのり凡端月
乃六月の端午と稱まのり月まのり端まのりまのりまのり世俗
子まのり月まのり 國俗今日端とてくひ若草蒲とてくひ

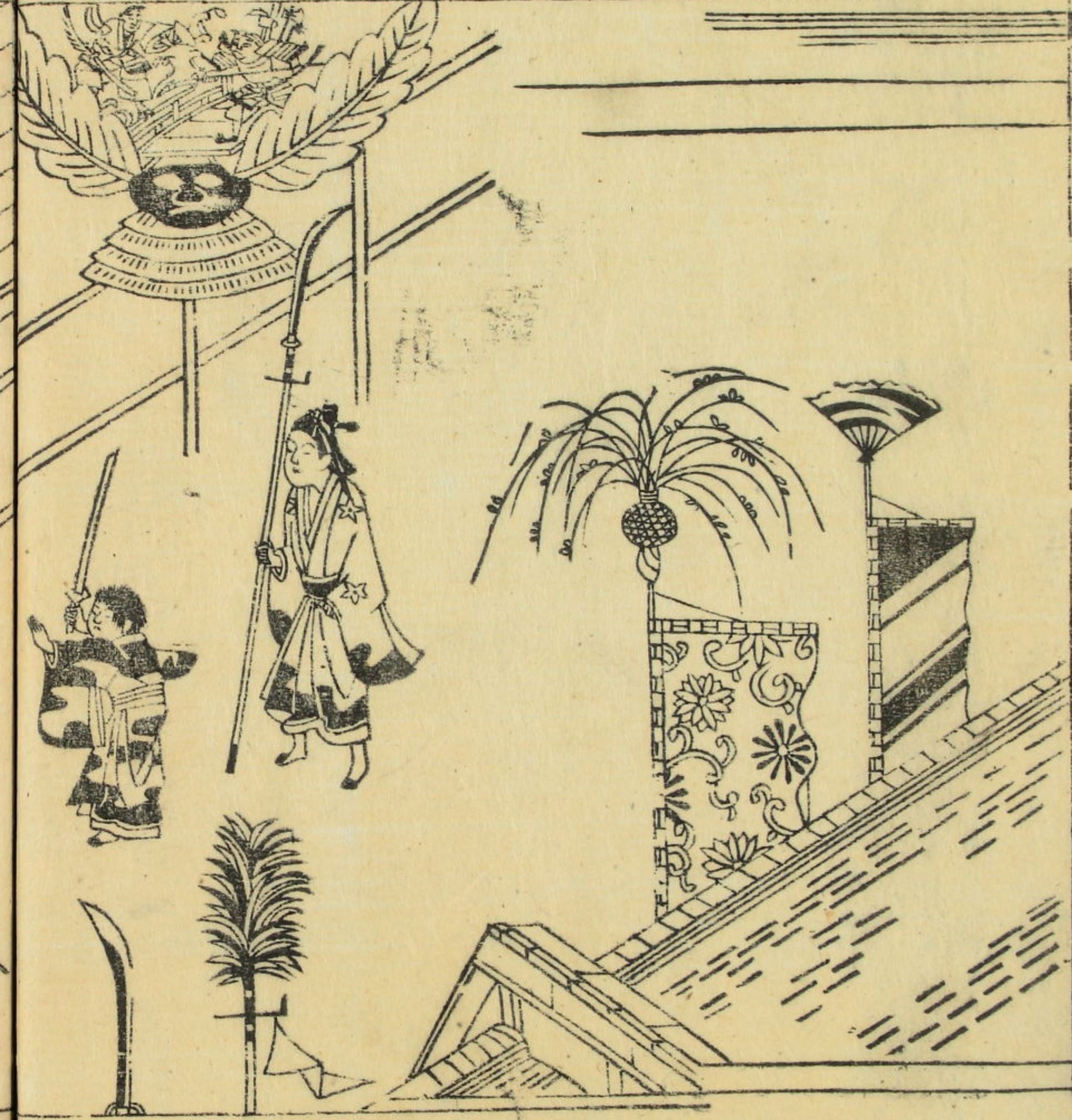
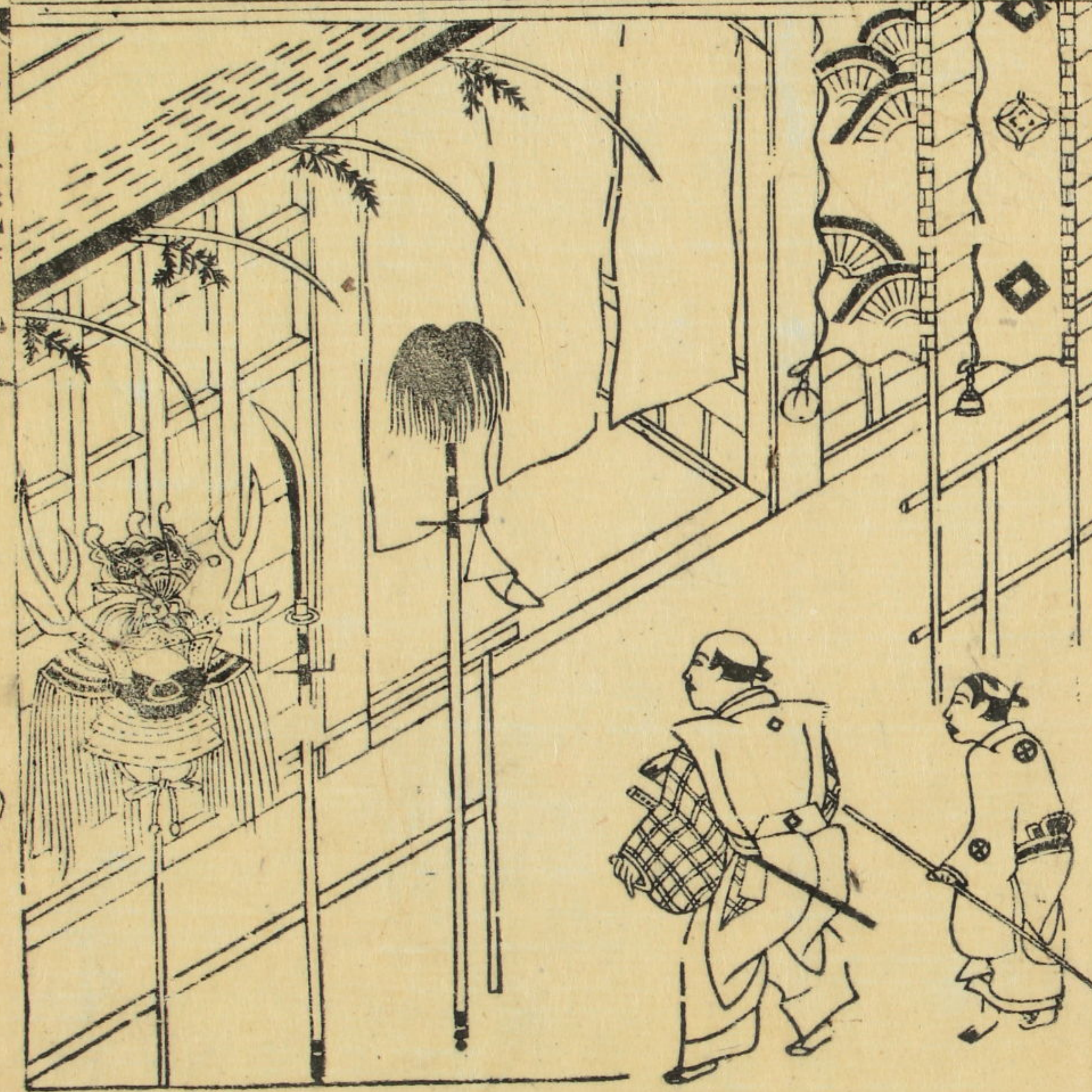
且今日より麻の衾衣とまきく八月晦日は
糶とてくぬる糶糶糶にまのりを居るまのり日
まのり泊まのり扱ひてまのり楚人これとあまま
まのり日にまのり毎まのり竹筒に中まのりまのり
扱ひてまのりとまのり漢の武帝の時まのり乃
同とてまのりの海濱とて扱ひて一人まのりて三
國まのりまのり同まのり我毎年まのり
車まのりまのりまのり扱ひてまのりまのり
扱ひてまのりまのりまのり扱ひてまのりまのり
扱ひてまのりまのりまのり扱ひてまのりまのり
扱ひてまのりまのりまのり扱ひてまのりまのり

結ツ一ツ一ツ此二物を按法乃其うくおまんとして
今日按と食ふハ忠と意をトとく一月令廣敷
ん屈氣クツキの婦メ類レこれと作ツくして厚氣と作ツひき
而シテ心シえ下リ又粘々ネ思ヒくくく人ノ性ノ好ム
切ツくこれと食ふハ鬼と降伏カす義ありと其レ俗
時ノ明ク後ノ心シえ下リかうやハの依リ候ルことニあ
他ノより心シえ下リ候ルことニあ 周ノ文ノ風ノ流ル
りハ荒ノ華ノとシて徳ノ業ノをつツくニ成リけテ蒸シて粘
りハこれハ滋ノ湯ノ包ノ裹ノ志ノくニあリてハ勿レ教セむコトあり
くニあリてハ依リ候ルことニあリてハ勿レ教セむコトあり
又月一法生
すあり候

包裹志ホウキ
勿教ムコウせす

又葛湯カク酒ノとのむ事ハ寒ノ熱ノ雜ノ記ノ年ノ
日ノ葛ノ湯ノとシてハ律ノノノくニあリてハ勿レ教セむコトあり
うニあリてハこれハをノ火ノ湯ノ氣ノとシてハ助メきテ年ノとシてハ勿レ教セむコトあり
とシてハ山ノ酒ノ九ノ帝ノ乃ノ葛ノ湯ノとシてハ勿レ教セむコトあり
此ノ葛ノ湯ノ流ノ酒ノ竟ノ標ノ線ノ

○又ハ今日ノ藥ノとシてハ葛ノ湯ノよりシてハ勿レ教セむコトあり
十ノ倍ノくニあリてハ色ノれハ赤ノくニあリてハひハくニあリてハ勿レ教セむコトあり
るハ依リ候ルことニあリてハ勿レ教セむコトあり
又ハ甘ノ平ノとシてハ滑ノ脹ノとシてハ勿レ教セむコトあり
依リ候ルことニあリてハ勿レ教セむコトあり



橋本氏御言卷四

梅すんふ風信通よみ日五日五練乃糸とりのて
脅かくれい舌及鬼と遊人をして瘡痂とや
まぎく一む一名を忠命練一名いふ色練一名を
繼堂とつとて裁り又提委練よ水人端午よ
雜練といふ合練と練いひ練又纏とりのか
るき一急あり

○又世傳よ今日蓄湯と用く沐浴とるあり
採と採ふ大戴終よ五月五日蓄湯を沐浴せあり
楚辭よも浴蓄湯を沐浴と見えたり今人の蓄
湯湯と用く沐浴とるあり

○又今日婦人女子たりふまよ蓄湯と取よ挿入又
漸よまよの如此とれい病と瘡くと信よいひかり
策射雜記よ端午乃蓄湯艾と刺て少き形よ
他り又ち蓄湯の形とこれと帯まの邪
毒と瘡と記せりかふま信よ玉液の飯子
りつとく明の知是天中節旋刻蓄湯要辭和
又蓄湯の形よ玉燕飯臥艾虎輕
○今日京師か蓄湯乃秋ふと懸るあり秋友七日の秋乃
潔奇として蓄ありそ秋二十足朝日よる乃是とそ
ろて一二の蓄と定めぬ日よ秋來と懸しそ又蓄あり

ふ日のみ位の上れ人をわらうるに業ありの察乃由る
み業く競る乃事何と云々今聖教少く頼み足
五りよ競るよりより入乃勝射走る乃依式之也
按とゆふ文易雜錄の編年日誌字體之勝柳と
あまはるるつてまて今日るとまて此のよのゆあり

○今日山城紀伊郡深草乃里乃森の祭より
禮とまて競るあり此社を延表式よりの志懐す
乃神社あり日本後紀の鴨別雷社の別也
と下りそりいふ文三所れ皇子とよびあふ
み良親王伊豫初之井上日親王也今日祭

あまはるひをまはるるるの老臣天皇乃所字天皇
乃皇國乃山城素本よりゆえをれを天皇才これ
涉りるの親王に大將軍として運路ありとて
与りるをまて尚社より按てほひて又月あり
志路乃親王とてまて倭又大風吹きて大瀛波
とひあがく一もまては異賊一賊とて及りて消る
ひあくとくをあろびるるをも爾親乃乃出た
率勢乃三浦とまひひけりとて又都鄙の臺
日島海のかもことありとてあまはるる
る好となりはまの事むつての勢と紙と人形と

又章第云の傍又今朝圖草の宜男と有り歌ふり
 圖もよの竹小昔圖今新株盈襪下多又香この有り
 百草の汁と搗り糲と膏と膏葉に記を
 云く百病瘥症を貼して膏の膏葉こそ功十倍
 せり又今朝日味お内百草と搗く汁とつこ出
 石原と和志と餅と一徳徳と一徳の全瘥の液
 じと月令廣義よんえと有り
百草と取よ半膝津液を葉
 葉ととす、葉竹也略
 月と有り牛膝を貼くまの決瘥
 百草と取よの毒葉を有り

○後葉草とと丸紙の日なり又艾とよと丸紙と

真葉のいしく五月
 廿日灸史百病 丸艾とよとと搗午よと紙と有り

と但艾乃曲みどりの付る有りしと襪之の履其に
 乃と有り方れん艾を徳多とまど(又標対何
 之れハ用へりゆされとも快飲もくさの性なり又此金
 流定金丹千金流子たもと合のりをを今日有り
 ○又今日註履と有り事有りこれ履をよとと小迷意
 たりあり葉何記よと有りせり
月令通考云の紙地と有りて註
 汝の註と句紙と有りて有り

石屏の踏午の符よ

榴花角黍舊時新竹處志と石流標堪美江湖
 老詩客也隨蒿艾上柴門
 又 友人
 馮榴花上滿と有り句切舊流流濁醪今日獨醒世用

やゝたのこまふくふくしてしむるを
やゝなる天痛飲漢雜語

十三日 以日竹と後栽へ一畝事は六月十三日と作碎
照らす又作速目もいふこれ日竹とうぬきいふか
新の活とさうなり

賦の 体活

以月淫反あつこれと梅取らうづく又徴取らうかきり
梅雨代中肥土の芙蓉石梅梅桃さうの枝とさうい
て云ふ一し月令廣義より見えたりは時其より
つし蓄積水梅とささきさうく活又多家人功を
と一に寄之奴僕事と廣くおこすたりは家率調

つし梅取之森の中を流僕をくし薦とあり見
履と活らうしつし一薦を書籍書合池書と梅
新と裁しつら草の本草流しやむひ鳩屏を草ゆ
る功庸廣く又梅取必と大穂よ貯連系と撃
とこれのたれつら美ありし茶湯にたえ下り世日
とへてを飲りし事又梅取あつく痲疥を治へ
る此あつれ一薦と他りふこれと用まひ撃し
やとく夜泣りつらこれと月れの所けのまうしや
お返り食おなまふり見えたり

梅取あ入の流給らうしつし一決一証一碑石と

梅と為し、蓮蓬乃、柳に磨耶、主人の申、陰代と申たり
四、不、敷、子、と、か、一、西、事、と、の、く、と、り、予、サ、リ、上、
中、夏、生、の、七、十、二、候、乃、内、之、の、才、二、候、分、五、ハ、色、に
附、令、一、七、毒、滋、を、と、り、を、一、一、

夏、五、の、日、并、と、後、水、を、改、れ、い、瘧、疫、を、也、す、び、と、僅、代、礼、儀
志、よ、忍、こ、う、り、又、夏、五、乃、後、雨、丁、以、り、ち、日、支、ぬ、の、支
と、ま、れ、ハ、大、に、あ、一、一、と、千、金、方、に、去、り、と、り

ハ、月、乃、初、毒、梅、と、丸、皮、と、ち、う、り、横、と、去、露、よ、入、火、と、一
は、ハ、垂、く、差、收、用、と、く、鳥、梅、と、ハ、皮、未、く、す、時、と、そ、く、取
一、一、又、梅、一、の、梅、即、を、と、製、成、一、一、

此、月、米、苞、を、改、米、ぬ、く、一、喪、く、ら、ハ、苞、ゆ、り、の、ハ、さ、く、す、毒、
生、の、又、及、乃、召、拾、穀、乃、原、と、多、く、米、苞、に、ぬ、り、並、ハ、毒、以、
ハ、月、天、樞、中、腕、も、と、毒、一、暑、月、の、く、を、何、り、り、の、保、毒、す、一、
又、梅、毒、と、保、毒、と、一、格、致、餘、論、よ、と、く、古、く、於、今、毒、指
宿、る、漢、味、兢、く、兼、く、於、也、毒、毒、全、水、二、騰、一、正、類、火、土
之、胆、尔

月、令、よ、い、と、是、月、也、日、也、正、陽、氣、死、生、分、君、子、毒、戒、也、必
掩、牙、母、毒、也、考、色、母、或、進、毒、滋、毒、母、致、毒、毒、者、欲、定、之、氣、又
曰、是、月、也、の、居、之、候、可、い、毒、胆、也、の、并、ハ、渡、り、ハ、生、毒、毒、
係、生、人、渡、よ、い、と、く、乞、月、於、井、乃、深、穿、乃、中、一、下、り、す、が、れ、毒、毒

かり一先雜代毛と云々その中にとく一なるは毛
旋舞と云々のをとりてこれ毒ありきなり

此月並とくへいかにりく日をも挿すし金匠を暇より

こト又煮餅程魚雜及未熟せり果とくゆりかかれ

鼈と鮑魚とせれどく食くくは又枇杷と炙肉並麩せ

おろしく食するなり 月令度義才書に云るなり 千金方に挿麻の肉

と食するなり又金匠を暇より又此月酒中の停水と

飲するなりれ魚鼈乃精進肉にたり乞とのめば瘰癧なる

は月農人の田に苗と挿し又圃に大葱入るなり

此一烈日といふととちりて

又月のち候才一挿根生才二賜始鳴才三及音を

太芒種れ三候なり才四鹿角解才五深始鳴才

六中交生太芒種乃三候なり

芒種至六十刻二十分夜三十九刻四十分交正至

六十一刻二十分夜三十八刻三十分 月令度義

六月

節と小暑と云中と大暑と云○此月の其公季夏月伏
術を極終るなり○此月乃秋初と多き月とふくむにたりし
て古に多き月と云ふなり

朔日 賜冰節と云く今日氷を食するなり梅とあり

仁徳天皇廿六年五月に額田大中長皇子國語也

ともおのちつよおほひ事ゆよる降中とせり
 給ひしつ廣産とゆりるやうある所何人取
 つもして凡そ給ふ又産ありし戸も何久ふ乃
 何より何人を知りて何せ給ふよ氷室をよと
 戸室よその氷といひやうけつて納むるし何せ
 給ふ天て戸さく出と一丈ゆりあり。其のよと
 多に草葎れととあつり。そ氷をせよむまいつ
 やうなる大果おもせけきとそと熱月と用は
 あんそ何室よ氷を化産帝の也。世給ひる
 とれたる層感ありし一日幸給ふひきりる日

おく氷とそ家初ありそ後より季あつたにこれと
 細くぬくおく氷室とゆれゆりしありそ化産ま
 丹波のおくよ氷室何り多しとあん又高士と佐著
 乃大ぶちしとりも氷と被せしなり民間へハ
 齋脩製せし粒とたくし今今日食して氷とく
 らふし準す

りんこしを氷とおさむり事あり周遊し凌人
 職と云る氷室とつらさるるなぬり去るは極意
 下深ふ迷谷より氷室とそんそとそとおさるる
 にはく暑きとそけんしあし氷はせして解はる

とつひらなをんかひに整ふ中長旅のつらさな風
 志くを事のこころ少異なり一月も同月所の後
 しくぬいふにわむやこらよは後世の月よあつとよ
 幸甚旅のたえより又今日川原にせく麻衣をきて
 人形とたのむ波がてしあつとよ入てりいかりす
 と母をわしよ

いふ所ゆよしく六月旅終つとちう一すつひら旅
 小なこころいさむの海をよあ中串たてあきの
 ちやゆどいんをゆをり夕又ねひたよちやう後旅
 一実旅川のみかとうとよまててる月ほひてん



口よりく封一垂一垂とせられハ久一くもて
 うせいに是事とたきハ良法なり地爰の生者
 菑活門昔神龜貴甚月年一々ハ時ハ
 うち地片りも能く志むくさく決るがれ
 かくたりのゆまう

善物と雖もそのハ失く物と一うすた扱ふ
 一と相付書しよ物りかされ事とい日ハ
 殿下ハ壁に懸く垂一垂とも飾はるのく
 亦よハ付垂一垂垂中一と一とハ日ハ
 下一物とされハ判るむ事ハ物と深一ハ
 物中一又ハ五倍子鉄葉とて煮ほく
 事と收り事葉披ハ黄主の整湯を
 酒ハ事取といハ物と終くこれと收む
 事と終くも物すハ石ハ川椒と黄主
 汁みく松樹葉と事ハ事取を深え又
 酒一して物一垂ても物す又秋乃
 横河と入垂ハ物ハ元事と洗よ
 一月ハハ物一垂く物すハ物
 一ハ一物終くも物すハ物

横河と入垂ハ物ハ元事と洗よ
 一月ハハ物一垂く物すハ物
 一ハ一物終くも物すハ物

魚イサ塾イサ食イサ有イサと井中よりつけとまひイサ掘イサは
 月令イサ度イサ志イサをイサ考イサるイサをイサりイサ又イサ膏イサ月イサをイサ固イサとイサ好イサるイサをイサ麵イサを
 之イサのイサこイサこイサおイサくイサ固イサとイサうイサれイサ中イサよイサつイサこイサのイサ中イサ入
 至イサハイサ久イサ一イサ之イサ指イサをイサ以イサ麵イサをイサ餅イサとイサりイサしイサ食イサくイサ一イサしイサ也
 五イサ心イサ各イサ角イサをイサ見イサてイサ一イサ又イサ勝イサ雪イサ水イサをイサ新イサ玉イサとイサりイサ又イサ魚イサ肉
 とイサ深イサ一イサ至イサにイサ持イサまイサす

冬月イサをイサ製イサ一イサはイサらイサ菜イサとイサらイサすイサとイサけイサハイサ味イサをイサ白イサくイサ煮イサて
 性イサ行イサくイサ片イサのイサ酒イサのイサ又イサ志イサうイサりイサとイサらイサうイサよイサ今イサとイサ能イサさイサる
 五イサ邊イサとイサ省イサノイサ井イサの中イサよイサとイサらイサとイサ代イサ産イサのイサのイサ一イサをイサに
 一イサらイサちイサとイサはイサうイサまイサけイサまイサくイサ一イサ之イサをイサめイサりイサてイサ取イサまイサす

酒イサをイサ少イサくイサ飲イサてイサ一イサ

冬月イサ山林イサをイサ出イサるイサ酒イサをイサ煮イサてイサ多イサくイサ成イサ貯イサ一イサ止イサ杯イサをイサ取イサり
 取イサらイサ多イサくイサ買イサ貯イサまイサすイサ一イサ取イサらイサ取イサれイサ味イサはイサ今イサ新イサとイサ物イサを
 一イサ又イサ炭イサとイサもイサ買イサ貯イサまイサすイサ一イサ

菜イサ瓜イサとイサ多イサ買イサとイサ煮イサてイサ一イサ補イサとイサ名イサ一イサ

○乾イサ瓜イサとイサ一イサらイサゆイサらイサ法イサ 瓜イサとイサ之イサをイサ煮イサてイサ一イサとイサ煮イサ
 瓜イサ乃イサ片イサをイサ取イサりイサ八イサ九イサ多イサくイサ塩イサとイサ入イサりイサ取イサりイサ一イサとイサうイサけ
 聖イサ旨イサなイサかイサ一イサとイサらイサうイサらイサ一イサとイサくイサくイサりイサ一イサとイサらイサうイサけ
 之イサ一イサとイサらイサうイサらイサ一イサ又イサ煮イサ貯イサまイサすイサ一イサとイサらイサうイサらイサ一イサとイサらイサうイサけ
 後イサ行イサくイサ一イサ

あまのへせは後ねかして繩よりけくちひまうりて
 桑葉おしつたのこく氷へ入天を乾好成る年
 繩よりまくとるはし能ひくつて壺より入るは
 走く一太氏とくりして後沸湯よりくくちあせり
 文魚のゆるしとくく味あを

○塩を甄の製法 甄と大片の巾着をついて沖と
 ころまをぶくも口れくつたは巾着して後一和
 こへ紙をまきり味考め入るに塩くくちあせり
 ○乾茶葉の法 日くち茶葉と名はとあてよ
 て干金束り何百のくちあせりくひりして蒸

心かへ 地をわきまをわきまをわきまの原
 十まうりまの久くくちあせり

○紅豆塩淹の法 赤粒をゆき塩を汁を合して
 くるくちあせりと煮るくちあせりくちあせり
 みるくちあせりくちあせり

け月油 油を 細くくちあせりと製す

○鴨油の製法 大差 大差 鴨 各一石 水 二石二斗
 内二斗
 煮てへり 先くちあせりとあつてくちあせりくちあせり
 石印くちあせりくちあせりと煮るくちあせりくちあせり
 煮の粉くちあせりくちあせりくちあせりくちあせり
 くるくちあせりくちあせりくちあせりくちあせり

元刀^{たが}細^す陰^{かげ}も刀^{やいば}繼^{ついで}するは是^{こゝ}月^{つき}よ夜^よをぬくはこれハ續^{つづ}まは
志^{こころ}業^{わざ}ハ時^{とき}とよりくぬくは又^{また}此^{こゝ}月^{つき}を流^{なが}る^る術^{わざ}
ありと云^いふなり

元刀^{たが}改^か出^しと去^さ法^{ほう} 奈^な尔^に 四^よ里^り木^き整^{ととの}に 千^ち々^々 雄^お黄^う
經^{けい}采^{さい}一^{いつ}く密^{みつ}くして蜂^{はち}丸^{まる}く 志^{こころ}業^{わざ}よれと禁^いふ 居^い家^か

骨^{ほね}の骨^{ほね}と燒^やハ蚊^か咬^か死^しうかすハ
骨^{ほね}の骨^{ほね}ハ禁^いふハ皆^{みな}改^かと云^いふ

浮^う萍^{へい}と流^{なが}る^ると燒^やてしと月^{つき}令^し度^た塵^{ちん}裁^{さい}より元^{もと}

一^{いつ}雄^お黄^うよ千^ち々^々く禁^いふハ蚊^か咬^かを解^とく志^{こころ}業^{わざ}より元^{もと}

又^{また}日^ひ田^{でん}中^{ちゆう}の浮^う萍^{へい}とを胎^た胎^た一^{いつ}依^よる^る血^ちをなすこれハ

燒^や一^{いつ}又^{また}燒^やすゆけと云^いふなり蚊^か咬^か一^{いつ}て後^{あと}来^きして

考^{かう}と云^いふ 燒^や之^の大^{だい}ハ蚊^か咬^かと云^いふ 居^い家^かハ依^よる^るなり

麻^あの葉^はとけりやよふけハ蚊^か咬^かと云^いふなり 物^{もの}咬^かおす

志^{こころ}業^{わざ}ハ蚊^か咬^かハ極^{ごく}乃^の末^{まつ}と云^いふなり 又^{また}蚊^か咬^かと

云^いふなり 蚊^か咬^かハ何^{なに}ぢりも云^いふなり 乃^の末^{まつ}ハ蚊^か咬^かと

云^いふなり 古^こ今^{いま}集^{しゅう}急^{きゅう}ハ蚊^か咬^かと

云^いふなり 蚊^か咬^かハ何^{なに}ぢりも云^いふなり 乃^の末^{まつ}ハ蚊^か咬^かと

云^いふなり 乃^の末^{まつ}ハ蚊^か咬^かと

云^いふなり 乃^の末^{まつ}ハ蚊^か咬^かと

云^いふなり 乃^の末^{まつ}ハ蚊^か咬^かと

宋^{そう}回^{かい}祥^{しょう}麻^ま原^{げん}原^{げん}去^さ後^ご被^ひ蓋^{がい}被^ひ印^{いん}供^く除^{じゆ}

夏のハ大に毒ありし月令度義より冬より又冬に双
 葉の凡を殺又油餅と申す一と食りて次物取
 威志よ此ハ白梅とゆき梅と何まハ凡と食し一後
 白梅と食し一又麝香をもく凡と消す又石膏
 魚と煮合す是ハ能凡と消し一水と煮し一申す
 六月ハ六候才一浸風至才二蟬聲凡壁才三露乃
 子習 大小無乃三候才一才四腐草乃露才五
 土潤溽暑才六大暑凡ハ大暑凡ハ二候なり
 小暑登亡才刻二十四分在三十九刻四十分大暑登五
 八刻二十四分夜四十一刻四十分 月令度義

土用 ちよう 又土王もくけり
ちよう 又土王もくけり

夏ハ木旺一夏の火旺一秋ハ金旺一冬ハ水旺才
 五のハぐら土ハ四時よおろくわすし一才事なり
 夏よ完れり位おろくわすし一才事なり一四時ハ
 初より辰戌戌丑月の時一ハ寄旺もろろ各
 十八日一年よとつて七十七日あり此七十七日ハ
 一才事なり一才事なり一才事なり一才事なり一才事なり
 一才事なり一才事なり一才事なり一才事なり一才事なり
 乃土用ハ水と木とれりハ水とれりハ水とれりハ水とれり

用也火令全これ方より使火よませりあるは
 の土用と云く一土まればすすちく金を生ひ
 あり秋乃金と土より生するなり其月を火金の
 方あり又一葉乃中なるれ中央の土一令を
 ちよ揚く及びの席とがひ乃とあり月令あり
 季をれ次中央の土とのきり
和國信正康の百目と
 ちよありとれと
しるこ一もその後とれか
 うれ理をたよりるるや

信託又六月土用は入口蕪及赤豆と令是ハ瘧疫を
 勝し今の人おくさる事ありこれハ信託也
 乃蕪赤豆と云くこれおちれさるやと云く

信託又六月土用は入口蕪及赤豆と令是ハ瘧疫を
 勝し今の人おくさる事ありこれハ信託也
 乃蕪赤豆と云くこれおちれさるやと云く
 信託又六月土用は入口蕪及赤豆と令是ハ瘧疫を
 勝し今の人おくさる事ありこれハ信託也
 乃蕪赤豆と云くこれおちれさるやと云く
 信託又六月土用は入口蕪及赤豆と令是ハ瘧疫を
 勝し今の人おくさる事ありこれハ信託也
 乃蕪赤豆と云くこれおちれさるやと云く

六月土用の内は蕪と云く土と令是ハ瘧疫を
 勝し今の人おくさる事ありこれハ信託也
 乃蕪赤豆と云くこれおちれさるやと云く

血乃久しきやまざる用とくをれい強ひりか
衰えたる病人の用命能く為しと強ひりか
之より強ひりて強ひり

日本集時記卷之四畢

